

2. 整備・維持管理

甲府城跡は明治時代以降、著しい都市近代化のなかで、昭和30年代までには往時の面積の2/3程度までの姿を失い、残る約1/3についても多くの諸施設や記念碑が建設されるなど、その歴史景観は大きな変貌を遂げた。この状況のなか、山梨県教育委員会は、昭和42年（1967）に甲府城跡総合学術調査団を組織し、翌昭和43年（1968）に舞鶴城公園として現存していた約5.2haの範囲を県の史跡に指定した。さらに昭和44年（1969）には、甲府城の歴史と将来あるべき姿を多角的な視点からまとめた『甲府城総合調査報告書』を刊行した。この『甲府城総合調査報告書』の考え方は、その後の甲府城跡の取り扱いに大きな方向性を与え、平成2年（1990）から始まる舞鶴城公園整備事業の基本計画もこの報告書を基本に踏襲され、現在における整備等の方針も基本的にこれを踏襲している。

甲府城跡における整備は、石垣整備の状況から、以下のとおり大きく3つの画期を有する。

第一期（平成2年（1990）～平成16年（2004））：舞鶴城公園整備事業・石垣改修工事

第二期（平成17年（2005）～平成26年（2014））：鉄門復元整備事業・石垣補修工事

第三期（平成27年（2015）～）：石垣維持管理事業

（1）第一期：平成2年（1990）～平成16年（2004）

甲府城は史跡・公園として貴重な観光資源と考えられるものの、その価値が十分に活かされていないことから、山梨県は平成元年（1989）に『舞鶴城公園整備計画』を作成し、平成2年（1990）から文化財・都市公園としての整備と機能充実を目的とした舞鶴城公園整備事業に着手した。

舞鶴城公園整備事業は、県史跡甲府城跡を「A：本丸地区を中心とした歴史・シンボルゾーン」・「B：鍛冶曲輪地区を中心とした集いと憩いのゾーン」・「C：多様な石垣の形態を表出するゾーン」・「D・E：スポーツ・遊びのゾーン」として、ゾーン分けを明確にした上で、「甲府城調査検討委員会」の指導のもと、石垣改修工事、修景施設、便益施設、管理・インフラ設備工事のほか、占用施設等の撤去を進めた。

【石垣改修工事】

孕み出し等の変形によって崩落の危険が高い石垣の解体・積み直し、そして地震や利用目的の変化で改変されたり、明治期以降に積み直された様相の異なる石垣の撤去と積み直しによって、崩落の危険を排除するとともに伝統的な技術での積み直しによる歴史的景観の再現を目指した。

この石垣改修工事では、石垣を解体して積み直すため、まず工事箇所を決定したのち石垣の写真実測を行い、解体範囲を決定する。その後、石垣面ごとに築石一つ一つに通し番号を付け、測量図への記入、写真撮影の上で解体し、石材重量・積面の縦横長さ・控えの長さを記録していった。あわせて裏側の盛土の状況と裏栗石の幅等を記録した。さらに根石の地盤及び胴木を記録する発掘調査を実施した。

石垣解体による改修工事は平成2年（1990）から平成14年（2002）にかけて選定された石垣に対して順次実施していった。最も重要な天守台周りの石垣は未改修としたが、その穴蔵の入り口及び穴蔵内部周りには改修をおこなった。本丸曲輪では、曲輪外周の北側石垣の上半部及び北西部とこの内側の腰石垣、銅門周辺、さらに曲輪南側の内側にあたる腰石垣を改修対象とした。二の丸は北側の内松陰門周辺の石垣に孕み出しや明治時代以降のコンク

リート改変が多く、ほぼ全体の積み直し改修とした。天守曲輪は天守台・本丸の南側を取り巻くように高い石垣が特徴で、明治時代以降の間知積みによる改変やコンクリート石垣が多くみられ、広い範囲での積み直し改修を行った。稲荷曲輪では、曲輪内東側の腰石垣に明治時代以降の間知積みによる改変があり、石垣解体により内部からさらに野面積石垣が見つかった。また稲荷門付近の石垣は昭和の台風で崩落した箇所でもあったため積み直しを行った。稲荷櫓台石垣は、櫓建造物復元のための補強として石垣改修を行ったものである。鍛冶曲輪は、南側が堀に面していて軟弱な地盤であることから発掘調査でみつかった胴木による地盤補強技術を反映させた伝統工法での改修とした。こうした石垣解体改修を伴う整備事業は平成 16 年（2004）まで継続した。

【修景施設】

歴史的建造物については、文献・絵図・古写真・発掘調査等の史料の検討により復元根拠を明確にしたうえで、可能な限り史実に忠実な姿での復元を実施した。平成 9 年（1997）に鍛冶曲輪門、平成 11 年（1999）には稲荷曲輪門及び内松陰門、平成 16 年（2004）には稲荷櫓を復元し、また、平成 10 年（1998）より漆喰塀の整備を本格的に開始し、本丸・天守曲輪から始まり、以降鍛冶曲輪、稲荷曲輪、数寄屋曲輪において設置されている。

【便益施設】

平成 6 年（1994）に鍛冶曲輪において公園管理事務所建設や公共トイレを設置したほか、平成 10 年（1998）は本丸に、平成 12 年（2000）には稲荷曲輪に公共トイレがそれぞれ設置されている。また、来城者用の駐車場については、内城内には設けず、堀地区に設置した。

【管理・インフラ設備】

平成 4 年（1992）から平成 16 年（2004）にかけて、園路及び園路広場工事、照明器具の設置、水道管や電気配線の敷設工事等が行われた。

【占用施設等の撤去】

城内の占有施設については公園の整備方針、雰囲気と合わないもの、公園利用上、不適切な位置にあるものは移設、または用途を変更して利用する方針とした。この結果、昭和 40 年（1965）に建設された山梨県立青少年科学センターは平成 10 年（1998）に閉館、翌平成 11 年（1998）に解体、昭和 41 年建設の議員会館（1966）は平成 16 年に撤去された。さらに、城内各所に所在した記念碑についても、関係各所に移設する等の措置を行った。また、樹木についても、眺望・石垣に影響がある障害木、ヒマラヤスギやドイツトウヒなど城の雰囲気と合わない樹木の除去等をおこなった。

（2）第二期：平成 17 年（2005）～平成 26 年（2014）

【石垣補修工事】

平成 16 年（2004）までの舞鶴城公園整備事業で課題とはなっていたが改修対象としなかった未改修の石垣に対して将来的な変異変形や落石が想定され、安定・安全化を図る必要性が再認識され、利用者等の安全確保と文化財として石垣変異変形の防止のために、石垣の危険部位の撤去と補強及び不足部分への石材補充による石垣補修工事を実施していくこととした。

石垣補修工事の事前調査として、対象石垣の表面清掃等の現状把握調査を行い、施工箇所と施工方法の検討をおこなう。この調査成果を受け、実際の施工では、落下の可能性のある石材の除去・補強、詰石の落下部分への補充、石材表面の風化部分の除去、裏栗石の流出防

止・補充、緩んだ詰石の叩きしめなどを実施している。こうした石垣補修工事は、平成 26 年（2014）までの間、天守台周り石垣、本丸南面石垣・西面石垣、二の丸西面石垣、稻荷曲輪と数寄屋曲輪の東面石垣等で順次進めていった。である。また、後述する鉄門復元整備事業に伴って、平成 22 年（2010）鉄門周りの石垣に対しても補修を行っている。

【鉄門復元整備事業】

山梨県教育委員会は平成 17 年（2005）から平成 21 年度（2009）にかけて、甲府城跡保存活用等検討委員会を設置し、天守閣復元の可能性や本丸を中心とした歴史的建造物に関する広範囲な調査検討をおこなった。その成果を踏まえ、平成 21 年（2009）に甲府城跡櫓門整備検討委員会を設置し、復元の検討が可能な櫓門 2 棟（鉄門・銅門）について、復元整備の可能性や方向性等の検討をおこなった。甲府城跡櫓門整備検討委員会での検討を受け、山梨県では史料が充実し、十分に復元の根拠が説明できると判断された鉄門を、鉄門整備事業として復元整備することとなった。

鉄門復元整備事業は、同事業に伴い設置した「県指定史跡甲府城櫓門跡復元検討委員会」の指導のもと、平成 22 年（2010）から平成 25 年（2013）にかけて実施した。復元にあたっては文献・絵図・古写真・発掘調査等の史料の調査・検討により復元根拠を明確にしたうえ、在来工法を駆使して可能な限り史実に忠実な姿での復元を実施している。

（3）第三期：平成 27 年（2015）～

【石垣維持管理事業】

平成 2 年（1990）からの積み直しによる石垣改修、補修事業を実施してきたが、長年の経過により、築石のクラックや隙間、孕み出し、詰石の落下等の変状が確認されてきている。このため、甲府城石垣の長期にわたる構造物の安定と状態の保存を目的とした点検業務により、石垣の落石や崩落等の危険性を除去し、その変異変形を早期に発見し対策する石垣維持管理計画を平成 26 年（2014）に策定し、平成 27 年（2015）から石垣維持管理事業を実施している。

石垣維持管理事業では、全石垣の目視点検及び変状ゲージ計測とこの結果に基づいた近接目視による詳細点検及び軽微な補修を行い、これらの記録と維持管理方法の検討を行っている。補修は目視点検の結果により順次石垣を選定し、詳細な点検を行った結果で軽微なものに限り、浮石の除去、叩き締め、剥離除去等を行っている。また変状が見込まれる石垣の築石の約 140 か所ゲージ計測を定期的実施し、長期的なデータの蓄積と変動の観察を行っている。詳細点検と軽微な補修は、順次継続的に稲荷曲輪外の北側石垣から東側石垣、また曲輪内西石垣に対して実施、その点検結果を記録し、令和元年（2019 年）現在も実施している。

〔指定地外における整備〕

（甲府市歴史公園周辺）

平成 15～22 年度において甲府駅周辺拠点形成事業の一環で甲府市歴史公園として、山手門や山手渡櫓門の周辺が整備され、平成 19 年度（2007）3 月に完成した。本地点は、国鉄時代には貯炭場として機能していたため、遺構の残存状況があまり良くなかったが、発掘調査で発見された石垣をベースにして、石垣の積み直しを行い、建物は柳沢治世時代をイメージして伝統的な工法を用いて復元している。また、土手や内堀も一部再現されている。対象面積は 6,039 平方メートルである。

また、甲府駅北口駅前広場の整備に先駆けて発掘調査したところ、清水曲輪と櫓周辺の石垣が発見された。広場の一角であるが石垣を復元し露出展示してある。平成 22 年 7 月に完成した。

(山梨県防災新館石垣展示室)

平成 21 年 3 月に「県庁舎耐震化等整備基本計画」が策定され、山梨県防災新館は防災拠点としての役割を果たすために、旧庁舎を取り壊して建設された。平成 22 年度に旧庁舎解体時に楽屋曲輪南西部の石垣が発見されたことから発掘調査を行うと共に、記録保存後に石垣を解体して新しい庁舎の地下に移築することが決定し、翌年の平成 23 年度に残存石垣の 13 メートル分を移築し、石垣展示室として整備されるに至った。平成 25 年度に保存処理された桐木も展示され、ガイダンス設備と共に開設した。国内でも最大規模の屋内展示となっている。

(県庁構内)

「県庁舎耐震化等整備基本計画」の一環で県議会議事堂委員会室棟改築工事に伴う事前調査が平成 26 年度に実施され、温泉施設と考えられる石敷遺構が発見された。これは絵図にも記載がみられる「湯出ル」等の標記がされる地点と合致したことから、遺構の埋設保存を講じた。現地には温泉関連遺構解説看板の設置が行われている。

(甲府城下町)

甲府市において、町人地における旧町名表示看板を 箇所を平成〇年〇月に設置し、地域の由来を知ることができるようになっている。

県公用車駐車場地点から発見された遺構を埋設保存し、平成 30 年 1 月に現地の遺構を解説した看板が県財産管理課により設置された。

令和元年に開府 500 年を記念してストリートミュージアム「小江戸甲府 VR」が甲府市によって整備され、6 箇所のスポットが整理されている。

表 史跡甲府城跡の主な整備記録

第一期 平成2年(1990)から平成16年(2004)

年度	施設名	地区	工期	備考
平成2	舞鶴城公園整備事業着手に伴い発掘調査を開始	—	—	
	石積工	内堀	H3.2~H3.6	堀(西側)
平成3	浄化槽設置	内堀	H3.12~H4.5	堀(東側)
	石積工	内堀	H3.9~H4.6	堀(南側)
	園路広場工	稲荷曲輪	H4.1~H4.8	児童公園
平成4	園路広場工	稲荷曲輪	H4.10~H5.3	児童公園
平成5	塀設置	鍛冶曲輪	H5.7~H6.3	
	公園管理事務所等設置	鍛冶曲輪	H5.11~H6.6	
	石積工	鍛冶曲輪	H5.12~H7.3	
	庭園造成	鍛冶曲輪	H6.3~H7.3	
平成6	園路舗装工	鍛冶曲輪	H6.11~H7.3	
平成7	園路舗装工	鍛冶曲輪	H7.9~H8.3	日本庭園南
	鍛冶曲輪門復元整備	鍛冶曲輪	H8.3~H9.2	
平成8	トイレ設置	本丸	H9.3~H10.3	
平成9	塀設置	本丸、天守曲輪	H10.2~H10.9	
	塀設置	鍛冶曲輪	H10.2~H10.12	
	塀設置	稲荷曲輪、数寄屋曲輪	H10.2~H11.1	
平成10	稲荷門復元整備	稲荷曲輪	H10.8~H11.7	
	内松陰門復元整備	二の丸	H10.9~H11.7	
	塀設置	二の丸	H10.9~H10.10	内松陰門北
	塀設置	稲荷曲輪	H10.12~H11.3	東
	塀設置	鍛冶曲輪	H11.2~H11.6	
	塀設置	稲荷曲輪	H11.2~H11.6	稲荷門付近
	園路整備	堀	H11.2~H11.10	JR跡地(稲荷曲輪北)
平成11	植栽工	稲荷曲輪・数寄屋曲輪・鍛冶曲輪	H11.3~H11.6	
	青少年科学センター撤去	稲荷曲輪		
	県民会館一部、県庁東別館、舞鶴会館撤去	楽屋曲輪、内堀		
	園路工	天守曲輪・鍛冶曲輪	H11.6~H11.11	
	石積工	堀	H11.9~H12.1	稲荷曲輪・数寄屋曲輪の東
	園路工	鍛冶曲輪	H11.9~H12.3	
	トイレ設置	稲荷曲輪	H11.12~H12.8	
	園路工	天守台・二の丸・本丸・天守曲輪・鍛冶曲輪	H12.2~H12.8	
遊亀橋梁下部工	内堀	H12.2~H12.7		

平成12	遊亀橋梁上部工	内堀	H12.4~H12.9	
	水道管添架	内堀	H12.7~H12.10	
	電線類添架	内堀	H12.7~H12.10	
	照明設置	?	H12.8~H12.10	武徳殿東・公園東歩道
	浄化槽修繕	内堀	H12.8~H12.10	
	稲荷櫓復元工事	稲荷曲輪	H13.3~H16.3	
平成13	石積工	稲荷曲輪	H13.7~H13.12	
	園路広場工	鍛冶曲輪	H14.2~H14.3	
平成15	園路広場工	稲荷曲輪	H16.1~H16.2	
	植栽工	稲荷曲輪	H16.1~H16.2	
	照明設置	稲荷曲輪	H16.1~H16.2	
	舗装工	稲荷曲輪	H16.1~H16.2	
	昇降機設置	稲荷曲輪	H16.1~H16.2	
	植栽工	稲荷曲輪	H16.2~H16.4	
平成16	園路広場工	内堀	H16.8~H17.2	あじさい広場
	サイン設置工	全域	H16.10~H17.2	

表 史跡甲府城跡の主な整備記録

第二期 平成17年(2005)から平成26年(2014)

年度	施設名	地区	工期	備考
平成25	鉄門復元整備	本丸	H22~H25	

表 史跡外の甲府城跡の主な整備記録

年	施設名	地区	備考
平成19	甲府城跡山手御門復元整備	清水曲輪	
	甲府駅北口石垣復元整備	清水曲輪	
平成25	防災新館石垣展示室オープン	楽屋曲輪	
平成27	山梨県議会議事堂委員会室棟脇に遺構解説看板設置	楽屋曲輪	石組み水路遺構と石敷き遺構(温泉遺構)の解説

表 石垣整備の変遷

第一期：平成2年(1990)～平成16年(2004)：石垣改修工事

年度	石垣地点
2・3年度	天守曲輪
3・4年度	数寄屋曲輪
3～6年度	鍛冶曲輪
4年度	本丸
4・8・9年度	稲荷曲輪
5年度	天守台・本丸
4～9年度	二の丸
7・8年度	天守曲輪・帯曲輪
8・9年度	本丸
10年度	人質曲輪

第二期（平成17年(2005)～平成26年(2014)）：石垣補修工事

年度	石垣地点（ナンバー）	地点	報告書	面	条件
16年度	I-5西側（改修）	稲荷櫓台東側	223	東	公園広場
17年度	T-2	天守台	233	東	園路面
18年度	N-44	二の丸	243	西	武徳殿西側
19年度	K-28・29、S-2・3	鍛冶曲輪・数寄屋曲輪	250	東	公道面
20年度	S-1・2	数寄屋曲輪	262	東	公道面
21年度	I-32・35・36	稲荷曲輪	267	東・西	公道面
22年度	I-30～32、I-80・82	稲荷曲輪	276	北西	園路面
23年度	H-59～62、70	本丸	286	南西	広場面
24・25年度	T-1・3、H-70・28、Tn-5、T-4・16～18	天守・天守曲輪	299	南西・南	園路面
26年度	N-26・34、Tn-15、H-28	坂下門・銅門・天守台穴	303		園路面

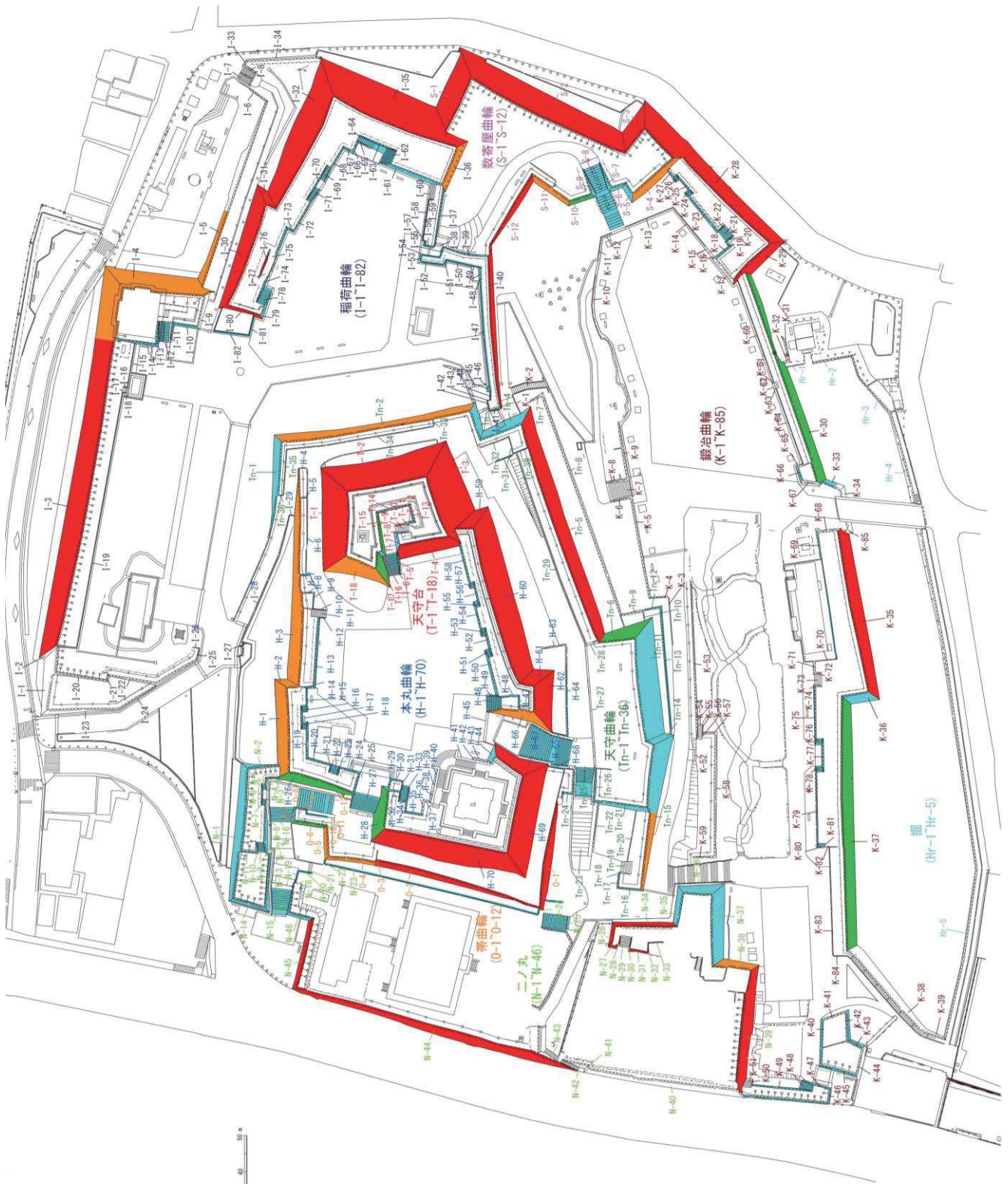
第三期（平成27年（2015）～）：石垣維持管理事業

年度	石垣地点（ナンバー）	地点	報告書	面	条件
27年度	I-3・4	稲荷曲輪	—	北	公道面
28年度	I-5・30・31・32・35	稲荷曲輪	—	北東	公道面
29年度		トイレ火災年度（中止）	—		
30年度	T-2	天守曲輪	—	東	公道面
31年度	S-1・2・3、K-28	数寄屋曲輪・鍛冶曲輪	—		公道面
令和2年度	N-3・4・8・12・13・14・17・44（一部）・45・46	二の丸北側	—	西	公道面
令和3年度	N-40・41・42・44（一部）	二の丸南側・報告書作成		西	公道面



- 石垣改修 (解体積直し)
- 石垣補修 (詰石等)
- 維持管理詳細点検
- 復元
- 未改修

石垣整備状況図



- A 75%以上
- B 25%以上
- C 25%以下
- D 復元

石垣改変状況ランク区分図

表 史跡内に存在する石垣の改変状況一覧

A : 75%以上残存、B : 25%以上残存、C : 25%以下残存、D : 全面解体

地区	要素	No.	現 状						発掘調査		文献	
			現況	残存率 ランク	天端 幅m	裾幅m	左高m	中高m	右高m	発掘調査		解体
天守台	石垣	T-1	築城期石垣、野面主体一部粗割、矢穴少なくほとんど野面、左隅角部に変則的な算木積	A	18	29	14	13	12	H4天端のみ改修 H24詰石補修	無し	県史甲府城IV
		T-2	築城期石垣、野面主体一部粗割、矢穴少なくほとんど野面、変則的算木積で粗割築石にはほぼ矢穴あり	A	21	35	25	14	14	H5天端のみ改修 H17詰石補修	無し	県史甲府城IV 県史甲府城H17整備
		T-3	築城期石垣、野面主体一部粗割、矢穴大きな築石にあり、ほとんど野面、隅角部変則的算木積で矢穴多い	A	17	21	17	17	16	H5天端のみ改修 H24詰石補修	無し	県史甲府城IV
		T-4	築城期石垣、野面主体一部粗割、二分割石材（兄弟石）多い	A	14	18	8	8	8	H5天端のみ改修 H24詰石補修	無し	県史甲府城IV
		T-5~ T14	解体積み直し	D							有り	
		T-15	両隅角部改修済、未改修部分はほとんどない、築城期石垣、割石主体、築石大きめ石材、	C	11	12	3	4	3	H5裾部より上を改修	右側裾部は未改修	県史甲府城IV 県史甲府城V
		T-17	未改修部分はほとんど残らない、築城期石垣、割石主体一部野面、左隅角部稜線はつり変則的算木積あるが	C	4	5	6	6	4	H5裾部から中部に欠けて改修	右側裾部は未改修	県史甲府城IV 県史甲府城V
T-18	右隅角部改修済、築城期石垣、野面主体一部粗割、築石矢穴なし、左隅角部変則的算木積稜線はつりあり、隅角部野面主体一部矢穴粗	B	9	19	10	9	7	H5天端から右裾部にかけて改修	天端から右側1/3裾部まで積み直し	県史甲府城IV 県史甲府城V		
本丸曲輪	石垣	H-1	左裾部は築城期石垣、これ以外は解体修理済、未改修部分は野面主体一部粗割、両隅角部に稜線はつりあるが改修済、	B	23	23	9.4	9.4	8	H5解体修理	左裾部1/3残して積み直し	県史甲府城IV
		H-2	上半分は積み直し、築城期石垣、野面主体一部粗割、隅角部稜線はつり不明瞭だが変則的算木積あり、矢穴確認できず	B	3.1	4	7.5	7.5	7.8	H5改修	中央より上を積み直し	県史甲府城IV
		H-3	上半部1/2程解体修理済、未改修部分は野面主体一部粗割、築石不定形で矢穴確認できず、	B	60	58	1	9	9	H9解体修理	中央より上1/2を積み直し	県史甲府城IV, VIII
		H-4~ H-6	新規石垣	—								
		H7	築城期石垣									
		H-8~ H-12	新規石垣	—								
		H13~H-25	解体積み直し	D							H9積み直し	
		H-26	ほぼ全体を解体修理した江戸中期石垣、打込ハギー部野面、算木積・反り・キオイがあるが改修済、解体した石材をそのまま使用して積み直し	C	18	21	10	8	6	H4, 5に解体修理	右裾部をわずかに残してほぼ全体を積み直し	県史甲府城IV
H-27	階段	—										

本丸曲輪	石垣	H-28	右下隅角部のこのして解体改修済、粗割主体、右隅角部に変則的算木積あるが一部修理済、積直しは旧石材をそのまま使用	C	10	15	5	7	8	H5.8に改修 H24.25詰石補修	右裾部を残し、裾から中央上部を積み直し	県史甲府城VII	
		H29~ H-31	解体積み直し	D									
		H32~ H-49	新規石垣	—									
		H50~ H58	解体積み直し	D									
		H-59	築城期石垣、野面主体一部粗割、矢穴少ない、隅角部変則的算木積	A	5	5	—	9	—	平成4~5に天端付近改修 H23詰め石工事	無し	県史甲府城上巻	
		H-60	築城期石垣、野面主体一部粗割、大きな石材に矢穴、裾部に岩盤、右隅角部変則的算木積、左隅角部境界不明瞭、壁面暗渠有り	A	45	47	8	9	10	平成4~5に天端付近改修 H23詰め石工事	無し	県史甲府城IV 県史甲府城上巻	
		H-61	築城期石垣、野面主体一部粗割、矢穴確認できず、右隅角部境界不明瞭、裾部に岩盤	A	4	5	—	9	—	平成4~5に天端付近改修 H23詰め石工事	無し	県史甲府城上巻	
		H-62	築城期石垣、野面主体一部粗割、矢穴少ない、	A	7	17	9	9	9	平成4~5に天端付近改修 H23詰め石工事	無し	県史甲府城上巻	
		H63~ H65	解体積み直し	D									
		H-66	築城期石垣、野面主体一部粗割、鉄門正面右側	B	9	20					H4に改修	左裾部から上部にかけて積み直し	県史甲府城IV, VIII
		H-67	築城期石垣、野面主体一部粗割	A	9	17	—	—	—	平成5, 9, 12 H22詰め石工事	無し	県史甲府城IV, VIII 甲府城鉄門整備	
		H-68	新規石垣	—									
		H-69	築城期石垣、野面主体一部粗割、矢穴確認できず、隅角部変則的算木積稜線はつり、築石横目地・団子積あり	A	22	32	10	9	9	H22右隅角部から1/3付近まで詰め石工事	無し	甲府城鉄門報告	
H-70	築城期石垣、野面主体一部粗割、矢穴大きな築石にあり、右隅角部変則的算木積、控え短い築石多い、全	A	35	47	8	8	8	H23詰め石工事	無し				
天守曲輪	石垣	Tn-1	新規石垣	—									
		Tn-2	築城期石垣で未改修部分は野面主体。右側は大正期の切り込みハギ。左側は近代の積み直し。横に長い石材がある。未改修部に矢穴はなし。	B	53	57	5	5	6	H2~3に改修	中央部1/3ほどが未改修	県史甲府城I	
		Tn-3~ 4	解体積み直し	D									
		Tn-5	築城期石垣、野面主体一部粗割、矢穴あるが主体は野面、左隅角部変則的算木積	A	64	66	6	7	9	H2~H3に改修 H24.25詰石補修	右隅角部と築石部を積み直し	県史甲府城V, VI	
		Tn-6	築城期石垣、粗割主体で一部に野面。	C	10.4	14	9.17	7.2	5.46	H7.8に改修	右側裾部を残して大部分を積み直し	県史甲府城V. VI	

天守曲輪	石垣	Tn-7~10	新規石垣	—									
		Tn11~14	解体積み直し	D							H7積み直し		
		Tn-15A	築城期石垣、粗割主体で、所々に野面が見られる。左側の出隅には矢穴やはつりがある。	B	21	46	4	6	6	H5に改修	左下部分を除いて多くを積み直し	県史甲府城IV	
		Tn-16	築城期石垣、粗割主体だが、一部に野面。一つの石材に多くの矢穴がある。	C	5.8	—	3.3	3.6	4	H7.8にほぼ全面改修	右下裾部を残して全面的に積み直し	県史甲府城IV 県史甲府城上巻	
		Tn-17	解体積み直し	D									
		Tn18~20	新規石垣	—									
		Tn-21	解体積み直し	D									
		Tn22~25	新規石垣	—									
		Tn26	解体積み直し	D									
		Tn27~29	新規石垣	—									
		Tn30.3	解体積み直し	D									
Tn32~36	新規石垣	—											
帯曲輪	石垣	0-1	築城期石垣、野面主体一部粗割、矢穴あり、左隅角部石材縦使と矢穴あり、露出岩盤あり、全体的に孕みがある	A	34	33	4	7	4	未改修	無し	県史甲府城上巻	
		0-2	築城期石垣、野面主体一部粗割裾部に矢穴多い、右隅角部石材縦使	A	47	48	4	4	2	H7改修	右側、築石部を積み直し	県史甲府城上巻	
		0-3	新規石垣？	—									
		0-4	築城期石垣、粗割主体一部野面、矢穴多い、左隅角部変則的算木積あるが解体改修済	B	7	—	5	5	4	H8解体改修	中央裾部をのこして両脇、上部を積み直し	県史甲府城VI, VII	
		0-5	築城期石垣、未改修部は野面主体、隅角部のみ矢穴あり、未改修部分に算木積あり	B	9	10	5	5	59	H8解体改修	中央裾部のこして両脇、上部を積み直し	県史甲府城VI, VII	
		0-6	築城期石垣、野面積み主体。	C	9	8.8	5.42	4.7	4.2	H7.8改修	右下裾部を残して全面的に積み直し	県史甲府城VI, VIII	
		0-7~9	解体積み直し	D						H8解体改修			
		010~12	新規石垣	—									
二ノ丸	石垣	N1~14	解体積み直し	D						H6解体改修			
		N-15.16	階段	—									
		N-17	解体積み直し	D									
		N18~25	新規石垣	—									
		N-26	築城期石垣、野面主体一部粗割、裏栗石流出	A	5	7	3	3	3	未改修 H28詰石補修	無し		
		N-27	築城期石垣、右隅角部築石部1/3崩落、詰石欠落	A	—	—	—	—	—	未改修	無し		
		N-28	築城期石垣、全体崩落	A	—	—	—	—	—	未改修	無し		
		N-29	築城期石垣、石段形状保持	A	—	—	—	—	—	未改修	無し		
		N-30	築城期石垣、野面主体、崩	A	—	—	—	—	—	未改修	無し		
N-31	築城期石垣、野面主体一部	A	—	—	—	—	—	未改修	無し				

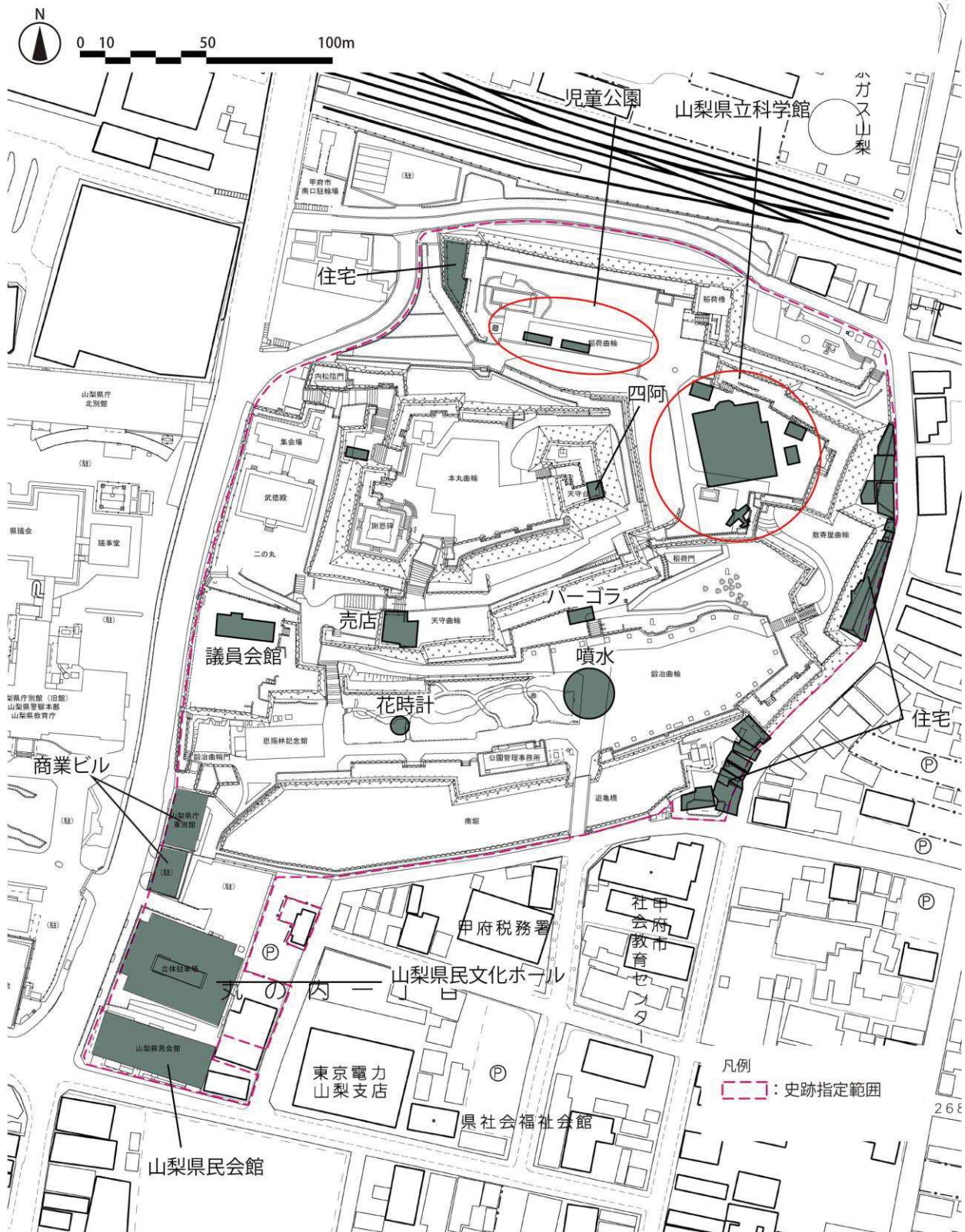
二ノ丸	石垣	N-32	築城期石垣、崩落の虞	A	—	—	—	—	—	未改修	無し	
		N-33	築城期石垣、雑草繁茂	A	—	—	—	—	—	未改修	無し	
		N-34	築城期石垣、野面主体一部粗割矢穴少ない、坂下門礎石埋設保存	A	17	17	3	4	4	未改修 H28詰石補修	無し	県史甲府城上巻
		N-35	江戸時代石垣粗割主体の打込ハギ、左隅角部変則的算木積	A	9	10	4	4	5	未改修	無し	県史甲府城上巻
		N-36	江戸時代石垣粗割主体の打込ハギ、右隅角部変則的算木積石材縦使いあり、左隅角部に空洞	A	7	—	8	7	6	未改修	無し	
		N-37	江戸期の構築か。野面、粗割石の布積み崩しが基本だが、左裾部から右天端に打ち込みハギがみられる。	B	18.8	—	9.5	—	—	裾部から天端にかけて大正期に改修	無し	
		N-38	野面石、粗割石主体。隅角部に矢穴あり。左隅角部にはつり。	B	10.6	10	7.5	7.5	8.5	天端から中部にかけて大正期改修	無し	
		N-39	築城期石垣、野面主体一部粗割、改修済と未改修の差が顕著、裾部に矢穴ある大きな石	A	30	31	—	—	8	H5天端のみ改修	無し	県史甲府城上巻
		N40~44	新規石垣	—								
		N-44	築城期石垣、粗割主体だが野面も多い、矢穴ある大きな石があるが、矢穴ない割石も多い、出積変更箇所あり、孕みだしあり	A	78	82	4	6	7	S30石垣右上、H8~9左隅角部、H18天端、詰石補修	有り、天端のみ	県史甲府城H18報告
		N-45	野面石主体で、一部に粗割石。石材の横使いがある。矢穴はみられない。	B	20	20	—	—	—	H8、9に右裾を残して、改修	有り、解体時に石臼など石造物有り	県史甲府城VII
N-46	解体積み直し	D										
稲荷曲輪		I-1.2	新規石垣	—								
		I-3	築城期石垣、野面主体一部粗割、未改修部に矢穴多い	A	100	109	13	10	10	H8、H13~14改修、H27詰石補修	稲荷櫓下石垣2/3積み直し、H23修繕工事で詰石叩き交換	県史甲府城VII 稲荷台改修工事報告
		I-4	未改修部分は野面主体で一部矢穴ある粗割、改修部分は粗割主体、築城期石垣、粗割主体一部野面、隅角部変則的算木積あるが改修済、左隅角部に变化するノリ返し勾配あったが、改修により現在はみられない、	B	22	26	13	13	13	H8、H13~14は稲荷櫓復元に伴う石垣改修	稲荷櫓下3/4積み直し	県史甲府城VII 稲荷台改修工事報告
		I-5	築城期石垣、野面主体一部粗割、矢穴確認できず、露出岩盤あり、築石小さい	B	17	—	—	6.1	—	大正時代改修 露岩左は改修済	根石三段築石残存	県史甲府城H16報告
		I-6~8	新規石垣	—								
		I-9~14	解体積み直し	D						H8積み直し		
		I-15~29	新規石垣	—								
		I-30	築城期石垣、野面主体一部粗割、詰石工事済み、両隅角部変則的算木積、右隅角部に石材縦使い、割損ね矢穴痕あり	A	27	36	8	7	6	H9~10に天端新補石材で積み直し H28詰石補修	無し	県史甲府城V、VII 県史甲府城上巻 県史甲府城H22報告

稲荷曲輪	石垣	I-31	築城期石垣、野面主体一部粗割、詰石工事済み、右隅角部変則的算木積団子積あり	A	3	3	—	8	—	H9~10に天端新補石材で積直し H28詰石補修	無し	県史甲府城V, VII 県史甲府城上巻 県史甲府城H22報告	
		I-32	築城期石垣、未改修部は野面主体で改修部は粗割主体、詰石工事済み、左隅角部変則的算木積割れ多い	A	35	40	13	12	9	H9~10に天端新補石材で積直し H28詰石補修	無し	県史甲府城VII 県史甲府城上巻 県史甲府城H22報告	
		I-33~34	新規石垣										
		I-35	築城期石垣、粗割主体一部野面、矢穴少ない、隅角部変則的算木積、現存石垣中最も高い	A	37	35	6	18	17	H10に天端新補石材による積直し	無し	県史甲府城VII 県史甲府城上巻	
		I-36	築城期石垣、粗割主体で、一部に野面がみられる。粗割には矢穴が少ない。	B	10.3	15	5.65	5.3	5.7	H7.8に右裾部あたりを残して積み直し	有り。	県史甲府城VII, VIII	
		I-37~39	復元石垣	—									
		I-40	築城期石垣、野面主体改修部分は粗割、矢穴少ない、右隅角部が数寄屋石垣により埋め殺し	A	41	38	4	—	5	H4、H8天端を改修	H9積み直し	県史甲府城III, VIII	
		I-41~47	解体積み直し	D									
		I-48, 49	新規石垣	—									
		I-50~60	復元石垣	—									
		I-61~74	解体積み直し	D									
		I-76	築城期石垣、野面主体一部粗割、矢穴なし、二重石垣の内側石垣	A	6	—	—	2	—	H6, 8解体にて検出	無し	県史甲府城V, VII 県史甲府城上巻	
		I-75, I-77	I-76にとりつく石段、I-75, 77とともに6段	A	—	—	—	—	—	H8解体で検出	無し	県史甲府城V, VII 県史甲府城上巻	
		I-78, 79	解体積み直し	D									
		I-80	築城期石垣、粗割主体一部野面、矢穴少ない、左隅角部に変則的算木積	A	9	12	4	3	4	H6解体にてI-82撤去後背後より検出、I-82と同じ野面積みで築城期その直後に積直し、H22詰石	無し	県史甲府城V, VII	
教寄曲輪	石垣	S-1	築城期石垣、野面主体一部粗割、矢穴極少い、算木積無し、左隅角部直線勾配	A	17	13	10	9	8	H9~10天端新補石材による積直し、H20詰石R1詰石補修	無し	県史甲府城上巻 県史甲府城H20報告	
		S-2	築城期石垣、野面主体一部粗割、矢穴極少い、右隅角部3段ほど算木積	A	47	50	8	9	11	H9~10天端新補石材による積直し、H19, 20詰石R1詰石補修	無し	県史甲府城上巻 県史甲府城H19報告 県史甲府城H20報告	
		S-3	築城期石垣、野面主体一部粗割、矢穴補どし多くは野面、左隅角部変則的算木積が、	A	9	10	8	8	8	H9~10天端新補石材による積直し、H19詰石R1詰石補修	無し	県史甲府城III 県史甲府城上巻	

数寄曲輪	石垣	S-4	築城期石垣、粗割主体で矢穴のある割石もある。野面はほとんどなし。隅角部に稜線を出すハツリあり。	B	14.2	—	6.16	5.5	4.6	H3～4に改修	左裾部から右天端にかけて積み直し。	県史甲府城III 県史甲府城上巻
		S-5～9	解体積み直し	D						H4に改修		
		S-10	築城期石垣。粗割主体だが、矢穴は見られない。裾部のみが築城期石垣。	C	6	—	—	3.2	—	H3.4に改修。	裾部以外は全面積み直し。	県史甲府城II, III
		S-11	築城期石垣、粗割主体であるが矢穴は少ない。矢穴は裾部の石材にみられる。	B	12.8	12	4.36	4	4.6	H3～4改修	右裾部から左天端にかけて積み直し。	県史甲府城II, III 県史甲府城上巻
		S-12	築城期石垣、野面主体一部粗割、矢穴少ない、隅角部左はI-40へ連結。	A	20	20	2	6	6	H3～4に中部から天端改修	無し	県史甲府城II, III 県史甲府城上巻
鍛冶曲輪	K-1～16	新規石垣	—									
	K-17～27	解体積み直し	D									
	K-28A	築城期石垣、野面主体一部粗割、矢穴なし、28Bと連続	A	33	55	6	6	—	H10に天端新補石材による積み直しR1詰石補修	無し	県史甲府城II, III 県史甲府城上巻 県史甲府城H19報告	
	K-28B	築城期石垣、野面主体一部粗割、矢穴なし、数寄屋櫓台、石垣上部には細かな割石	A	11	(55)	10	10	10	H10に天端新補石材による積み直しR1詰石補修	無し	県史甲府城II, III 県史甲府城上巻 県史甲府城H19報告	
	K-29	築城期石垣、野面主体一部粗割、矢穴なし、変則的算木積まない	A	10	—	6	6	6	H10に天端新補石材による積み直し	無し	県史甲府城III 県史甲府城H19報告	
	K-30	築城期石垣、野面主体。矢穴はみられない。大部分が積み直し。	C	6.29	—	—	—	3.2	H3.4に改修。改修前から大規模に崩落。	右側10程を残して中央部は間知積みとなっている。裾部に胴木。	県史甲府城II	
	K-31.32	新規石垣	—									
	K33	復元石垣	—									
	K34	新規石垣	—									
	K-35	築城期石垣、野面主体一部粗割、全体的に矢穴は少ない。隅角部は改修済みで、算木積みとなっている	A	43.5	47	—	—	—	H4.5に改修	両隅角部裾から天端にかけて積み直し	県史甲府城II, IV	
	K-36	解体積み直し	D									
	K-37	築城期石垣、野面積み主体。左側裾部に築城期石垣が残る。	C	70.8	—	5.12	5.9	6.4	H4に改修	左側裾部を残して全面積み直し。	県史甲府城II	
	K-38.39	新規石垣	—									
	K-40	解体積み直し	D						H6解体			
	K-41	新規石垣	—						H6解体			
	K-42～43	解体積み直し	D						H6解体			
	K-44	新規石垣	—						H6解体			
	K-45～49	解体積み直し	D						H6解体			
	K50～65	新規石垣	—									
	K-66	解体積み直し	D									
K-67.68	新規石垣	—										
K-69～82	解体積み直し	D										
K82～85	新規石垣	—										

表 史跡甲府城跡の石碑

	名	設置年月日	県碑内容	状態
1	小田切謙明碑	昭和11年11月	自由新聞を明治12年5月設立。板垣退助と共に自由党を結成し、山梨県の文化の発展に努めた。	鍛冶曲輪に現存
2	雨宮鈍齋翁碑	明治18年12月	雨宮硯の元祖（花紋入りの硯）	身延町富士川クラフトパークに移設
3	明治天皇御製碑	大正13年11月	明治天皇が明治13年6月19日に来県し、その途中舞鶴城址にお立ち寄りになり歌を詠んだ。	鍛冶曲輪に現存
4	一瀬桑由来之碑	昭和16年4月	現代桑の品種を発見した。	市川三郷町歌舞伎文化公園に移設
5	笹子隧道記念木	明治38年春	中央線八王子～甲府間の難所笹子隧道の開通記念。着工明治29年12月、竣工明治35年11月。	大月市笹子駅に移設
6	史跡 甲府城跡	昭和47年4月2日	甲府城跡	稲荷曲輪に現存
7	母の光碑	昭和37年3月	家庭教育の中心である母親を敬う心を県民に養うため。	甲府市母子生活支援施設に移設
8	明治天皇御澄臨之碑	明治13年3月	明治天皇が明治13年6月、舞鶴城天守台跡に立ち県土を見た場所。	天守台に現存
9	謝恩碑	大正11年3月	山梨県が明治40年8月、台風に襲われ多大の被害を被ったおり、明治天皇より御料地を賜った。その感謝の気持ちを表した碑。	本丸に現存
10	飯田蛇笏碑	昭和38年10月	境川に生まれ、雲母を主催しその格調高い清韻を全国に広めた。	甲府市芸術の森公園に移設
11	八田翁碑	昭和3年12月	桑の品種、製糸繊維を改良し、山梨県の養蚕の発展に努めた。	笛吹市ホテル八田に移設
12	野口英夫碑	昭和4年3月	山梨日日新聞を設立。県議会議長。山梨県の経済発展に努めた。	甲府市丸の内公園へ移設
13	金辺八三郎碑	昭和39年11月	47年間にわたり山梨県の柔道発展に努めた。	甲府市小瀬スポーツ公園へ移設



史跡内において撤去された施設